

「飢えと寒さと重労働」に耐えた 入場無料 先着300名様

シベリア抑留体験を聴く会

— 自分で生の声を語れる者も少なくなり、僅かの時間しか残されていない —

今年には戦後73年。抑留生活からようやく生還帰国した方々も高齢に達し、次第にシベリア抑留の記憶も忘れられてゆきます。戦友の犠牲があったからこそ今の平和がある。平和の尊さを訴え続けることが生き残った抑留体験者の責務である。

そうした考えから林先生は92歳の高齢にもかかわらず、今も慰霊祭、シベリア墓参行脚、遺骨収集とともに戦友の意思を語り継ごうとシベリア抑留を語り継ぐ会を県内各所で開催されておられます。若い人たちにもシベリア抑留の問題に関心を持っていただくきっかけになればと、この度林先生をお招きして実体験された貴重なお話を聴く会を開催することになりました。

ぜひ、お誘い合わせのうえお越しください。



シベリア墓参時撮影

7月7日(土) 2018年

開場 13:00 / 開演 13:30

NTNシティホール・小ホール
(桑名市民会館)

桑名市中央町3丁目20番地

語り手 林 英夫

シベリア抑留生活を体験、昭和23年に帰国。昭和28年から桑名高校教諭、15年間に亘り在職。その後、四日市北高、桑名西高、四日市商業高の校長を歴任、昭和61年定年退職。

私立高校で講師を勤め、現在は家庭菜園などを楽しみながら、全国抑留者協会三重県支部長として抑留者関係のお仕事をされておられます。

賛助出演 劇団 すがお

朗読「桑名の空襲」 出演：長谷川浩巳（桑高第33回生） 塚原美鈴（桑高第30回生） 他

主催：桑名高校同窓会（お問い合わせ シベリア抑留体験を聴く会 ☎090-7691-7513 上田）

共催：全国強制抑留者協会 三重県支部 後援：中日新聞社・桑名市教育委員会・桑名高校PTA